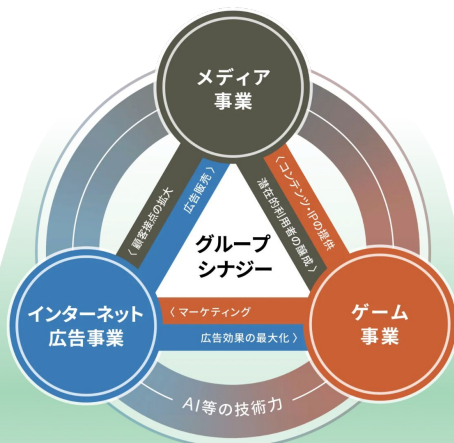


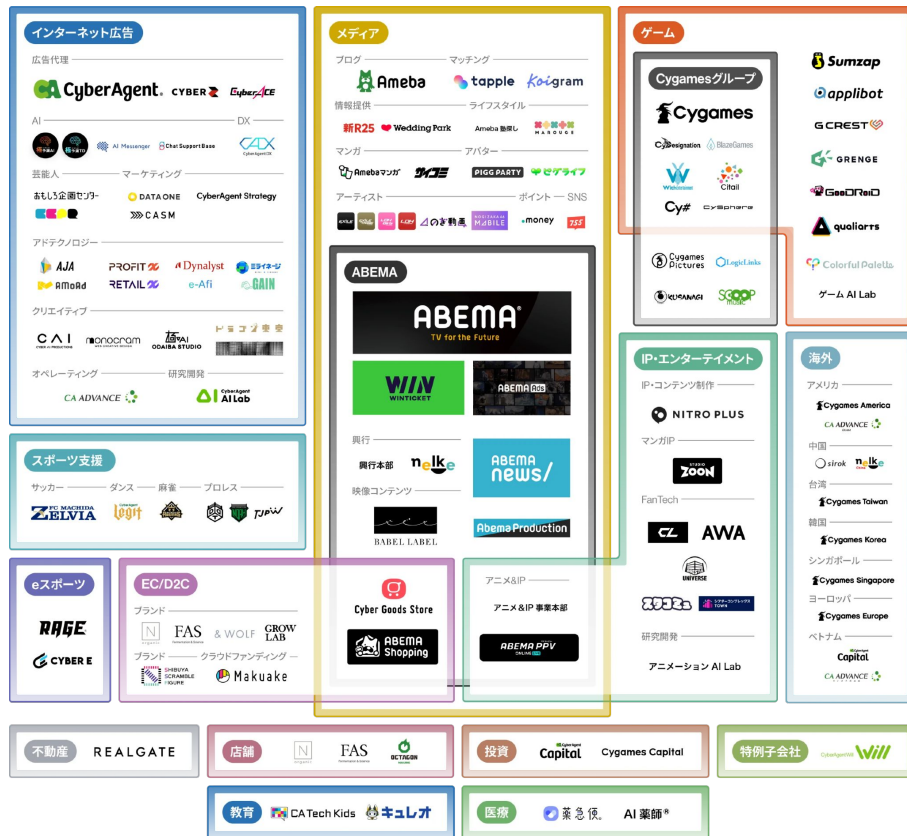
メディア事業、インターネット広告事業、ゲーム事業を中心に事業を展開。
各事業とも技術力、運用力を競争力に持続的な価値創出に取り組んでいます。

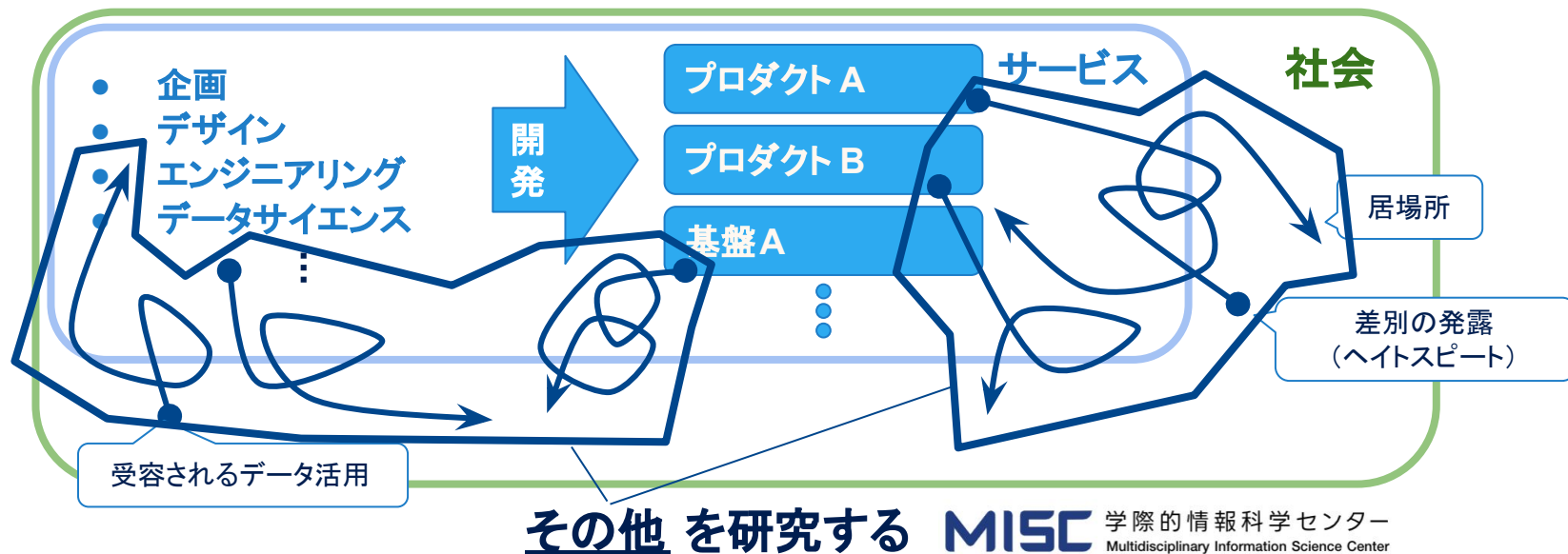


世界に通用するIPの創出
テクノロジーとクリエイティブで新たな価値の提供
広告価値の最大化
AI技術等を活用したDXの促進
メディア事業を中心に高収益な企業へ

Vision

21世紀を代表する会社を創る





- Web市場の拡大によって社会とWebの関係が複雑化
- 企画/デザイン/エンジニアリング/データサイエンスのみでは扱いきれない事象が増加
→ その他 の部分が重要に
- 専門性と問題意識を持ち、事業/社会に価値や課題を発見/創出できる独立型プロフェッショナルとして会社に貢献する

学際的情報科学センター リサーチャー；博士(情報科学)

慶應義塾大学 共生知能創発社会研究センター 訪問准教授

名大 情報科学研究科 複雑系科学専攻(博士課程)

- システムインテグレータでSE
- サイバーエージェント: Webフロントエンジニア
- データサイエンス・計算社会科学研究

■ 業務

- ・ 当社事業・組織運営への学術的知見の導入・活用
- ・ 自社メディアデータを用いた計算社会科学研究

■ 事例

- ・ 著名人に対するネットハラスメントの実態調査
→ 対策チーム設置
 - ・ Masanori Takano, Fumiaki Taka, Chiki Ogiue and Natsuki Nagata, Online harassment of Japanese celebrities and influencers. *Frontiers in Psychology*. 15:1386146 (2024)
- ・ ピグパーティ(アバターSNS)の「危なっかしい」ユーザに対する啓発
→ (実証実験)違反する/される率の低下 → 導入
 - ・ Masanori Takano, Mao Nishiguchi, and Fujio Toriumi, "Reducing sexual predation and victimization through warnings and awareness among high-risk users", *Journal of Computational Social Science*, 2025.
- ・ 社内エンジニア・ITエンジニア志望者に対するジェンダーギャップ調査
→ 人事・DE&I施策へ
 - ・ 高野雅典, 森下壮一郎, 神谷優, "IT技術者のジェンダーギャップ解消のための志望者・現役技術者に対する調査 デジタルプラクティス, 2025.



■ 学際的情報科学センターの取り組み

- ・ 事業に直接的・間接的に貢献することを目標として実施
- ・ 「データ分析→施策提案」や「機械学習モデル」だけでなく、事業課題や組織課題を学術的な枠組みで整理する文献調査なども(現状や施策の整理などに貢献)

■ できるだけ論文文化したい

・ 現状、最も信頼性が高い公開方法の一つ

- ・ 「社会科学的な分析結果」の妥当性を社内だけで担保するのは困難
- ・ 社外の専門家によるレビューが行われ、学会や学術出版社から出版される
- ・ サイバーエージェントの取り組みを信頼性の高い手段で公開
- ・ 社外から「専門家」として認められるための手段

・ 有用な知見の共有

- ・ 課題解決に関する知見は他社・ユーザにとって有用
- ・ 学術的な知見はアカデミアへの貢献
 - ・ アカデミアでさらに研究を積み上げていくことは当社を含む社会に有益
- ・ 特に企業のDE&Iは詳細が公表されないことが多い一方で知りたい人はたくさんいる

・ (個人的に)論文書けると楽しい

■ ネットハラスメント被害の実態は見えずらい。特に有名人 → 調べた

Masanori Takano, Fumiaki Taka, Chiki Ogiue and Natsuki Nagata, Online harassment of Japanese celebrities and influencers. Frontiers in Psychology. 15:1386146 (2024)

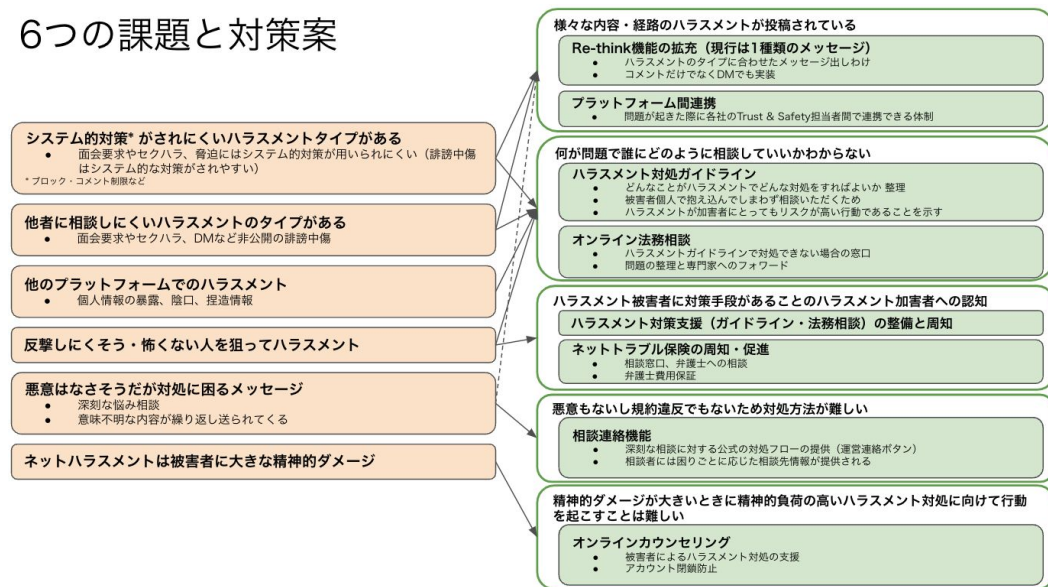
■ 芸能人・インフルエンサーの方々にアンケート調査を実施



→ 課題と対策を提案 → 専門チーム設置へ



6つの課題と対策案



誹謗中傷対策専門チーム設置

— 誹謗中傷・侮辱への対策強化 —



取り組み紹介:「危なっかしい」ユーザに対する啓発

Masanori Takano, Mao Nishiguchi, and Fujio Toriumi, "Reducing sexual predation and victimization through warnings and awareness among high-risk users", *Journal of Computational Social Science*, 2025.

特徴

- SNS運営者のサイバーエージェントと東京大学の産学連携による社会実装
- 深層学習技術と犯罪心理学に基づく学際的アプローチ
- 実証実験後には本格的に導入・運用



狙い

- 違反する/される前の段階で**危なっかしい**人の行動を変える
- 子ども・若年層の被害や違反を未然に抑える

アプローチ

- アプリ内のつながり・行動ログから翌日のリスクを機械学習で**危なっかしさ(リスク)**予測
- 毎日、上位リスク者(最大200人)に短い啓発・警告メッセージを送付
- 実施: 日本のアバターSNS『Pigg Party』
 - ランダム化比較試験(138日)
 - 介入群 12,842人／対照群 12,844人

主な結果

- 女性では効果あり: 違反と被害の発生が減少。効果は最長12週間持続。
- 夜間利用(20:00-翌5:00)が控えめに → リスクの高い時間帯を回避。
- 男性への効果は限定的。同じ人に繰り返すと慣れで効果が薄れがち。
- サービスの利用日数(満足度のKPI)への悪影響は検出されず。

なぜ効果があったのか？

犯罪心理のルーティン活動理論では、「加害者の可能性」「狙われやすい相手」「見張り不在」が重なると事件が起きやすいとされる。

運営の啓発によって女性で夜間回避などの行動変容が起き、事件が起きやすい状況が減少したと解釈できる。

取り組み紹介：Tech DE&I プロジェクト

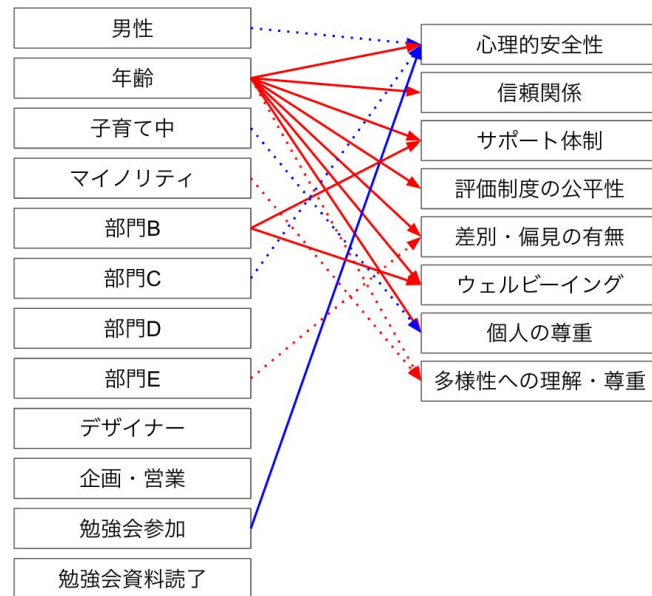
- 当社の特に技術者を対象としたDE&Iの取り組み
 - ・ 文献調査・社内アンケート調査 / 分析を担当
- 文献調査レポート
 - ・ [多様性尊重と包摂に関する文献調査 | CyberAgent Developers Blog](#)
 - ・ [ジェンダーギャップが発生する理由と対策としてのアフーマティブアクション | CyberAgent Developers Blog](#)



- エンジニア志望者へのアンケート調査
→ エンジニア就活のジェンダーギャップ課題



- 社内の働きやすさと属性の関係調査



高野雅典, 森下壮一郎, 神谷優,
“IT技術者のジェンダーギャップ解消のための志望者・現役技術者に対する調査”, デジタルプラクティス, 2025.



■ 個人データ利活用の社会的受容性

- 自分のデータを使っても良いと思うか嫌だと思うか
- だれに、なにを、どんなふうに、なんのために、で異なる
→ 調べた

